



学校便り 2月号

# かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008  
発行 令和7年2月14日 責任者 校長 永野 俊也

学校HP



学校ブログ



里周辺海水温  
20℃(2/11)



## 地球の大きさが知りたい・・・ 学び続けることとは

伊能忠敬 に学ぶ

校長 永野 俊也

歴史上好きな人物は?と問われると私の場合、岩手県の遠野に伝わる伝承を記録(座敷童や雪女等々いっぱいできてきます)した遠野物語で有名な柳田國男(日本民俗学の祖と言われます)の他、正確な日本全図を作成した伊能忠敬([いのうただたか]この人→)が思い浮かびます。ちょっと地味?と思われるかもしれませんが、今はそんな忠敬さんと学びについてのお話です。



1月の全校集会で、「今年の4月からは中学校の教員に復帰だなあ〜」と思い、子供たちに、「私が中学校の教員に戻ったらこんな感じです」と驚かないように前置きをして、次のように投げかけてみました。「あなたたちは、みんなが島立ちするから、自分もなんとなく島立ちするものだと思ってないか? それは違う。島立ちは、義務教育を終えて、まだまだ勉強したい。自分の将来のためにもっと学びたいという自らの強い意思で、学びのために父さん母さんに大きな経済的な負担をしてもらいはじめて実現する選択肢だ。勉強したくなかったら働けばいい。それも立派な選択肢だ。」口調はこの文よりもっときつかったと思います。多くの子供たちが目をパチクリさせながら聞いていましたが、6年生の中にはうなずきながら聞いている子もいました。鍛えてこそ教育 これは中学教諭時代の私の信念です。ただこれは誤解を招きやすい。鍛える前に、子供たちが、「学びたい」とか「今はとにかく勉強しないと…」と学びのスイッチをON にすること。これが前提であり、そこに教師としての力量が問われると思っています。ぎらぎらとしたオーラをまとい担任として子供たちの前に立てるよう、そろそろ準備を始めていこうと思います。

学びについて、忠敬に話を移しましょう。忠敬は、江戸時代後半(1745年)現在の千葉県九十九里町の貧しい商家の末っ子として生まれ、貧しい中、とにかく勉強に励みました。そしてその勤勉な姿を認められ、15歳という若さで土地改良土木工事の現場監督をまかされ、まったく経験のない中、大人たちを相手にその職責を全うしました。この時、測量の基礎を身につけたと言われています。そして地域の名家伊能家の婿養子に17歳で迎えられますが、この伊能家、長く当主不在であったため家計は火の車で、多くの事業を手がけている全てを忠敬は立て直しをすることになります。途中天明の大飢饉にも襲われますが、忠敬は村民に米を配るなどして、餓死者を一人も出さないなどその手腕を発揮します。そして家を立て直し、ようやく隠居が認められ好きな天文暦学に集中できるようになったのは50歳になってからです。19歳も年下の幕府天文方のトップ高橋至時(よしとき)に弟子入りし、めきめきと頭角を現わします。この師弟のもっぱらのテーマは、「地球の正確な大きさを知る」ことでした。当時の暦は、日食や月食のタイミングをはずす等不正確であったので改暦の作業が不可欠でした。そのために地球の正確な大きさを知る必要があったのです。南極と北極を結ぶ子午線弧(緯度)1度の距離がわかれば×360で地球の全周がわかる。そのためには、なるべく長い距離を計測しなければ…、そのような折、蝦夷地(北海道)にロシア船が姿を現わすようになります。幕府は国土を把握するため蝦夷地の測量が急務となり、忠敬に白羽の矢を立てます。以来18年10次に渡る日本全土の測量の旅が始まります。55歳を過ぎてから地球一周を上回る約4万キロを歩き、既に2次調査の時には、子午線弧1度は28.2里(現在値との誤差0.2%)という当時の科学値の最先端を割り出した忠敬。そうして次は、「この国の正確な姿を知りたい。」と愚直なまでに学び、行動に移し続けた忠敬。そういう姿に、私はロマンを感じ、学び続けることの大切さを学ばせてもらっています。

子供たちは、今島立ちに向け、学びにより巣立つ基礎力を身につけようとしています。そして一人一人、一生涯を通し学んでいきたいというテーマをつかみ、大きく羽ばたいてほしい。そう思います。どうか大きな夢をつかめますように!

## 頑張りました! 校内縄跳び大会

1月21日(火)は、1~4年と5・6年に分かれて、校内縄跳び大会を実施しました。子供たちは、様々な技に挑戦し、これまでの練習の成果を披露しました。保護者の方々に前にして、緊張して力を発揮しきれなかった子供もいたようですが、しっかり限界まで跳ぶことができました。最後は親子で長縄をしたり、良い思い出ができたようです。保護者の方々におかれましては、寒い中応援いただき、有り難うございました。



## 来年度に向けて!

1月28日(火)に、来年度入学予定の年長さんの体験入学及び入学説明会がありました。体験入学では、一年生が学校を案内したり一緒に遊んだりして交流を深めていました。



1月30日(木)に、里中学校で、来年度入学予定の6年生を集めてわくわく座談会と入学説明会がありました。子供たちは、中学生との交流を深め中学校入学に向けて気持ちを高めていました。

## 3月行事

- 3日(月) 卒業式練習
- 5日(水) 委員会活動(反省)
- 7日(金) 6年生を送る会(3校時)
- 8日(土) 土曜授業
- 10日(月) 卒業式練習(3校時)
- 11日(火) シェイクアウト訓練
- 12日(水) 委員会活動(編成)
- 13日(木) 卒業式予行(2・3校時)  
かのこゆり号来校
- 18日(火) 卒業式準備(3・4校時)
- 20日(木) 春分の日
- 21日(金) 卒業式練習(3校時)
- 24日(月) 第78回卒業式
- 25日(火) 修了式・離任式  
里幼小中PTA合同送別会

## 南日本作文コンクール入賞

今年度の南日本作文コンクールでは、残念ながら学校賞はのがしたものの、下記の友達が入賞しました。

4年	中原 大洋	入選
5年	齊藤 歆南	三席
6年	福元 くるみ	三席

## 寄付ありがとうございます!

1月号で空き瓶回収の収益について御報告いたしました。塩田酒造様から収益額と同額の寄付をいただきました。感謝いたします。子供たちの教育環境充実に使わせていただきます。

## 磯餅焼き

2月12日(水)磯餅焼きを行いました。石原巖さんをお迎えして、磯餅焼きや昔の子供の遊びについて話していただきました。荒天のため体育館での実施となり、伝統のこぼやもちを投げる練習をしました。残念ながら実際になげたり焼いたりするところまではできませんでしたが、里の伝統を感じる行事となりました。



# 今月の付録

## 甌島の未来に 思いを巡らす

甌島博物館 歴史・民俗伝承館 が もし、里にできたら **祝 甌島国定公園10周年!** (最終回)

里小学校150周年記念誌の補遺として書き始めたこの付録も、最終号となりました。先月号では、甌島各コミュニティの情報をまとめ、関係人口のネットワーク化と創出を行う。そうすることで、将来的に甌島の人口が減っても、関係人口の数を含める甌島総人口増は可能であり、地域行事の伝承や地域の活性化は可能となるのではないかというお話でした。

最終号は、甌島の象徴となりうる博物館がもしできれば、どういう役割を果たしてくれるのかという例を示しながら、甌島の未来を考えていきたいと思います。まず、博物館は、非営利の施設でここでは調査研究・展示保存・教育・企画立案・公開等が行われていきます。そしてその設置に当たっては、その使命[ミッション]が宣言されます。日本各地にある博物館の使命のうち、北海道博物館のものが、甌島に一番あてはめやすいと感じたので、その文をお借りして例として作成したものを左下に示します。

今年、甌島が国定公園に制定(2015. 3.16)されて10周年の節目の年ですがそのことが話題となるのがほとんどない気がします。博物館があれば調査・研究を担当する学芸員が配置されますから、多くの発信ができます。自然科学系と歴史・民俗系2名いるとします。自然科学系は、甌島の貴重な生態系について多くの視点を与えてくれます。例えば、甌島はその立地から、希少な渡り鳥がよく

### 甌島博物館 歴史・民俗伝承館 (仮) の使命[ミッション]

甌島のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、甌島ならではの自然・歴史・民俗・文化に関わる遺産を、私たちの大切な宝物として未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、島民・市民が甌島を知り、誇りを確認する場であり続けます。

甌島国定公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に甌島の自然・歴史・民俗・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒しとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、島民・市民に愛される博物館であり続けます。

甌島の玄関口である博物館として、島内の甌ミュージアム や各資料館などとの連携により、甌島再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、甌島の自然・歴史・民俗・文化に関する身近な相談窓口として、島民・市民の「知りたい」という気持ちに応えます。

甌島の自然・歴史・民俗・文化に関する総合的な研究機関として、甌島の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に務め、島民・市民の豊かな暮らしづくりと甌島の未来づくりに貢献します。

見られる場所ですが、つい最近もレアな  ソリハシセイタカシギ や  ヤツガシラが、目撃された!

とニュースになっていました。その他、マガ 外ヶ枝イ等々、各コミュニティと協力して情報や画像を集め、渡りの時期と分布を把握していけば、新たな甌島の魅力となり、子供たちには教育資源となります。さらに、海の中ではキビナゴの個体数減少(というよりは、小型化の方が最近気になっています)の原因を、漁師さんに協力をもらい、各関係機関とネットワークを張り解明していく等、調査研究機関として大きな役割を担ってくれるのではないのでしょうか。

一方、歴史民俗系の学芸員は、甌島各コミュニティの歴史文化の調査研究と展示、伝承に努めていきます。その中で、平和教育 を次の世代に伝える大きな役割も果たします。

サイパン島が陥落し、沖縄の本土上陸が始まると、いよいよ次は本土決戦(九州上陸作戦)が目前となり、県内では、甌島、種子島、屋久島の学童疎開が行われました。そして、沖縄本島にしろ硫黄島にしろ、本土決戦への時間をかせぐために決して降伏せず、徹底抗戦を貫きます。もし、それらの尊い犠牲による2カ月の足止めがなければ、本土上陸は実行され、その補給基地とするためにまず真っ先に里は艦砲射撃が行われる手筈でした。そしてそこで生き残ったとしても、沖縄の渡嘉敷島と同じ運命をたどったとすれば、親族同士農具等で自決(創立150周年記念誌に詳細は記述)していたかもしれませぬ…。甌島にある米艦隊に対する備えは、浦内湾に隠された特攻艇の震洋部隊のみでした…。これらのことを資料を基に展示構成し、語り部として解説するのが学芸員の役割です。

それから 鞍馬楊心流 も次世代に語り継ぎたい甌島の文化です。そのために薩摩藩の一撃必殺として全国に知られた、剛の剣 示現流 と柔の総合武術 鞍馬楊心流 を対比し紹介する手法を150周年記念誌では採用しました。結果として、示現流と自頭流の違いを含め、多くの資料が集まりました。示現流兵法史料館の協力を得て、博物館でも双方を対比し展示していけば、全国に発信していける気がします(鹿児島県警にも協力をもらい、現行の県警逮捕術とその元となった鞍馬楊心流の相関など、今紐解いておかなければこの先失われてしまう貴重な学術素材で研究したいテーマの一つです)。



むくはとじゅう

←この子も、元をただせば甌犬ですから『西郷つんと 棕鳩十』 甌犬の世界」という企画展示も、棕鳩十文学記念館と連携し、すぐにできるのではないのでしょうか。棕先生は、実際に何度も甌島に足を運び、綿密な取材の上に代表作である「孤島の野犬」を書き上げました。下甌島を舞台としたこの名作は、徳川時代から昭和20年代まで甌島全島に生息し、群れで時には人も襲う山犬(やまいん)をリアリティあふれる描写で描いた3部作です。終戦により手打の日本軍が放置した軍用犬のシェパードなど史実にもとずきながら、人間の身勝手さ、野生の厳しさなどえぐるように迫ってきます。今では絶滅してしまった甌犬、そんな今はなき甌島の姿を後世へ伝えるこの文学は、甌島から全世界へ発信したい作品です。

私の任期中に調査研究ができなかったテーマに「山犬がうようよする中、伊能忠敬 は、どのように甌島全島を測量したのか?西面絶壁続きだし…」というものがあります。大日本沿海輿地全図にはちゃんと甌島も描かれています。ぜひ、そういうテーマに若い人たちに挑んでもらいたい。ちなみに伊能図の甌島起点となったのは一の段で、そこには今でも国土地理院の起点台が置かれています。

船から降りた来島者が、まずここ(博物館)を訪れ目にするのは、甌島が一番元気だった昭和30年代の光景です。エントランスには、遠見山山頂までず〜っと続く段々畑、そして西の浜一面に弧を描いて立ち並ぶ収納小屋、ある人が「現代にこれが残っていたら絶対世界遺産!」と言っていた光景、そのパノラマ写真に囲まれて、来島者は現代とのギャップにさぞ驚くことでしょう。そして、各コミュニティが工夫したそれぞれのブース、桑之浦や内川内集落は、それぞれの小中学校の運動会で、みんなが盛り上がっている光景。西山小学校に赴任するため県本土から長浜港に着いた先生が、「えっ!」と驚く。PTAが背負子で荷物を背負い、助八古道で自らも徒歩で山を超えて学校によやく至るなどなど…夢幻のような世界から、甌島の自然・歴史・民俗・文化といった世界へ誘われていく…そういう世界を夢見ます。



現実に戻りましょう。甌島の歴史文化を考えた際、この10年が正念場だと思うのです。なにもせず時の流れをただ受け入れ20年が過ぎると、貴重な伝統や文化が失われ取り戻せなくなる。そういう危機意識を持っています。期待したいのは、甌島を離れた若い人たちが関係人口として各地でネットワークを張り外からも甌島を支えていくことです。島に残っている高齢者は知識と経験があります。それを現代に生かすには、現代の風を肌で感じている若者のアイディアであり、情報発信力だと思います。しっかり学び、そして目覚め立ち上がってください。

4年という長きに渡り甌島の歴史と文化にふれてこられたことを、たいへん幸せに思います。3月末で一旦区切りを迎えますが、今後は関係人口の一員として、これからも甌島とかかわり続けていきたいと思います。仲良くしてくださいね。

[ 完 ]